

佐同教だより

佐賀県人権・同和教育研究協議会

住所 佐賀市大和町大字川上 佐賀県教育センター 研究調査棟内

TEL 0952(62)6434 FAX 0952(62)6435

第43回佐賀県人権・同和教育研究大会 全体会

人と人の絆を確かなものに

行政・学校関係者ら950名が集う

8月8日(木)武雄市文化会館において、第43回佐賀県人権・同和教育研究大会全体会を開催しました。



当日は、気温33度を超える猛暑の中、県内各地から950名あまりの参加者があり、盛会となりました。

副教育長 挨拶要旨

佐賀県教育委員会
副教育長 横尾 金紹

本研究大会は、昭和45年県同教の発足とともに始まり、今回で43回目を迎えました。この間、同和教育をはじめ、さまざまな人権問題の解消に向け、活発な教育実践の報告や討議が行われ、学校や地域における人権・同和教育の推進に大きな役割を果たしてきました。

今日の我が国の社会経済情勢を見ても、景気は着実に持ち直している一方で、海外景気の下振れにより、地域の経済にとっては引き続き楽観できない厳しいところ

があります。このような社会経済情勢においては雇用差別や、格差差別の発生が懸念されるところであります。また、国民的課題とされます同和教育をはじめ、さまざまな人権問題は、まだ十分に解決されたとは言えず、大きな課題として残されています。こうしたなかで本年県内では数件の差別事件や賤称語を使用した事案が発生しており、まだ賤称語の重みが十分に理解できていないと言わざるを得ません。

県教育委員会では同和教育をはじめ、さまざまな人権問題を解決する上で教育の果たす役割は大きいとの認識に立ち、学校教育と社会教育との両面から、これまで人権教育の推進に取り組んでまいりました。しかしながら、まだまだ十分とは言えず、引き続き努力していく必要があると考える次第です。

私たちは、「すべての人間は生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利について平等である。」とうたった世界人権宣言の意義や重要性を改めて認識し、すべての人の人権が尊重され、共に支え合い、共に生きることのできる共生社会の実現に向けて努力していかねばならないと考えます。

開会挨拶のあと、佐同教育研究局より本研究大会の基調を提案しました。わたしたちがめざす「人権啓発」「人権教育」「人権のまちづくり」とは何かを確認し、本研究大会の意義、そして、本研究大会から人権教育・啓発・まちづくりの行動を発信していくこうと参加者に呼びかけ、10月18日に鹿島市・嬉野市・太良町で開催する分科会の成功に向けて思いを新たにしました。



講演 「今日までそして明日からく光座のキセキ」

社会福祉法人小国町社会福祉協議会

室原正孝さん

開会行事終了後、熊本県小国町の室原正孝さんによる講演がありました。以下の講演要旨を記載します。

小国町の解放運動

小国町の解放運動が始まって約50年。「差別をばらまかないように、一人ひとりがきちんと理解することが大切。」だとして教育を柱に、町民の啓発のためには役場職員が、学校では教職員がきちんと取り組めるようにと、職員学習会、教職員学習会が



およそ30年間行われてきた。最初はあった、支部と行政職員・教育行政との間の溝も、少しずつ本音を出し合うことで埋めてきた。

また、その取り組みはやがて、人権を考える地区懇談会が開かれるようになり、さらに、町と小国支部との協力で集められた1300名の町民の署名が国を動かし、人権同和教育啓発の拠点となる小国町隣保館「パラレルセンター」が建てられ、差別のない開かれた町づくりの拠点となっている。

部落差別との出会い

小学5年生の時に初めて年賀状を出すことになり、ある友だちの住所を聞くと母は、「〇〇でいいじゃない。」ととても困った様子で答えた。高校3年生の時、小国にある地区を教えられた。小5の時に年賀状を出そうとした友だちの住所だった。とても悔しかった。教育実習生の時、職員会議で、ある先生が泣きながら出身宣言をされていた時、自分は、「泣きながら言うくらいなら言わなければいいのに」と思った。1988年に小国町役場に就職し教育委員会を希望したが、周りから「大変ばい。」

講演要旨

「自分の家族に同和問題を話そう。」
「教科書無償」や「同和对策事業」をはじめいろいろな同和問題を家族会議で話すようにした。父は以前「言わんならいいやないや。」と発言したさい、「それがイカン。」と言われたことがあり、それがきっかけで「同和問題が嫌になった。」と発言するなど自分とも溝ができたと感じていた。しかし、自分が病気をしたことをきっかけにまた

と言われた。上司の命令で水曜日に行われていた学習会(成人)に参加、小国でも命が絶たれるような厳しい差別の現実があることを知り、「自分は何をしたらいいか。」と考えるようになった。

「自分が差別者だ。」

狭山県民集会において各支部でのデモ行進に参加するようになったが、あまり目立たないようにいつも集団の真ん中にいた。「イカンナー。」と思いながら、自分に負けていたと思う。「人間として間違っている。」
「自分が差別者だ。」と気づいた。気づいても何も取り組まなければ何も変わらないと自分から職員学習会に参加をするようになった。



話す機会が増え徐々にわだかまりはなくなってきた。2006年11月教育委員会へ異動し、11年ぶりに狭山県民集会に自分の子どもと参加し、一番前を歩くことができた。

劇団「光座」の誕生

自分の子どもは解放子ども会キャンプや

人権フェスティバルにも参加していた。人権フェスティバルでは小学生を中心とした人権劇が公演されていて、それを見て心動かされた保護者や町職員・教職員の中に、「こんな風に大人も出来たらいいのに。」
「子どもが頑張っているのに、大人は何もしなくていいのか。」と言う思いが芽生え、それが劇団「光座」の結成につながった。
(2006年10月)

第一作 「光」 (2007年～2008年)

西光万吉の少年時代から始まり、偏見と差別に苦しみながらも「部落差別をなくすには部落自身がたちあがらなくてはならない」とした佐野学の影響を受け、水平社を創立するまでを描いた内容で、自分は水平社宣言を読む役になった。いろいろな想いを経て、家族にも、それまで身を削るように差別の現実を語ってくれた人たちにも聞いてほしいと思つて読み上げた。

来年3月8日に第四作の「ひやくまんつぶの涙」を上演される予定です。

感性は磨くものだ 感性を磨くと

将来変わる自分がそこにいる

明日からもそんな風に生きていこう

と思う、という言葉で講演を締めくくられた。

佐賀県人権・同和教育研究協議会

開催のご案内

2013年度 第1回実践交流会

日時 2013年11月15日(金) 受付 13:00~
13:30~16:30

場所 小城公民館(小城高等学校南側)
小城市小城町176番地20
TEL(0952)73-3215

今回のテーマ

差別事象の課題を克服するための取り組み

今回は、さまざまな差別事象から見えてきた課題の克服に向けた実践を、社会教育と学校教育の立場から実践事例や啓発活動の様子、体験談をもとに紹介していただきます

社会教育関係者、市民団体のみなさまへ 小・中・高校・特別支援学校の先生方へ

人権が尊重されるまちづくりに向けて、行動につながる学びの場を提供していくために必要なことを明らかにしましょう!

子どもたちの人権感覚を高め、差別を無くしていくために、教職員として何ができるのかを考えましょう!

講師：中島 一磨さん

(福岡県人権・同和対策局講師団)

：井上 信宏さん

(佐賀市立城北中学校)

- 主催 佐賀県教育委員会
佐賀県人権・同和教育研究協議会
- 参加費 500円(資料代を含む)
※当日受付にてお支払いください

【問い合わせ先】

佐賀県人権・同和教育研究協議会事務局
〒840-0214 佐賀市大和町大字川上 佐賀県教育センター 研究調査棟内
TEL(0952)62-6434 FAX(0952)62-6435
メール sajinkyo@isis.ocn.ne.jp

☆詳しくは佐賀県人権・同和教育研究協議会ホームページをご覧ください!